

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析

うるま市立伊波中学校 理科

### 1. 取り組みの成果が見られる設問

大問	小問	設問内容	正答率 (全国差)	無解答率 (全国差)
2	(1)	評価の観点：科学的な思考・表現 問題形式：選択式	86.8 (△0.6)	0.0 (▽0.1)
3	(3)	評価の観点：科学的な思考・表現 問題形式：記述式	47.4 (▼4.9)	4.4 (▽3.5)
4	(2)	評価の観点：科学的な思考・表現 問題形式：記述式	41.2 (▼2.9)	10.5 (▽5.0)
7	(3)	評価の観点：科学的な思考・表現 問題形式：短答式	92.1 (▼2.3)	0.9 (▽2.7)

### 2. 課題のある設問

大問	小問	設問内容	正答率 (全国差)	無解答率 (全国差)
4	(3)	評価の観点：科学的な思考・表現 問題形式：記述式	29.8 (▼19.6)	16.7 (▲0.5)
5	(1)	評価の観点：自然事象についての知識・理解 問題形式：短答式	33.3 (▼23.9)	7.9 (▲0.8)
5	(2)	評価の観点：科学的な思考・表現 問題形式：選択式	47.4 (▼15.4)	0.0 (▽0.5)
6	(1)	評価の観点：自然事象についての知識・理解 問題形式：選択式	51.8 (▼18.7)	0.0 (▽0.4)
6	(2)	評価の観点：自然事象についての知識・理解 問題形式：短答式	21.9 (▼30.0)	14.0 (▽0.6)
7	(1)	評価の観点：自然事象についての知識・理解 問題形式：選択式	35.1 (▼20.0)	0.9 (▲0.5)
9	(1)	評価の観点：自然事象についての知識・理解 問題形式：選択式	70.2 (▼17.8)	0.9 (▲0.3)

### 3. 効果があった取り組み

効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・27問中8問で無解答率が0.0%である。</li> <li>・27問中15問で無解答率が全国平均を下回っている。</li> <li>・無解答率が全国平均を1.0%以上上回っているのは1問だけである。</li> <li>・記述式の設問では、6問中4問で無解答率が全国平均を1.2~5.0%下回っており、残りの2問でも無回答率はともに0.5%しか上回っていない。</li> </ul>
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験のレポートを作成させる際に結果や考察を記述させている。</li> <li>・定期テストに記述して解答する設問を必ず作成している。</li> </ul> <p>→ 記述することに抵抗を感じない生徒が多くなったと考えられる。</p>

### 4. 授業改善のポイント

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解についての設問において、正答率の全国差が大きい。</li> </ul> <p>→ 基本的な知識の定着を図るために、随時ミニテストを実施する。 (より効果を上げるために、ミニテストを宿題と連動させる。)</p>
学校全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の読み間違いによる誤答や記述における日本語の間違いがある。</li> </ul> <p>→ 読解力や語彙力、文章力を向上させる取り組みが必要である。 (読ませるだけではない読書指導や各教科での記述指導を行う。)</p>